第６次富良野市総合計画
基本構想原案

補足資料①
「前提・大切な視点」「基本構想原案」

パブリックコメント用

令和２年１０月１日

Furano City　All Rights Reserved.

－補足資料①－
【A】総合計画策定の
前提・大切な視点

少子高齢化や人口減少、環境問題などからくる複雑な社会課題、テクノロジーの急速な発展などこれまでとは社会構造が大きく変わってきています。今までと同じ方法や考え方だけでは現状の維持すらも難しい時代が既に訪れています。

昨年のまちづくり１００人協働ワークショップの参加者の声の分析や、世の中の動向を広く収集することで、総合計画策定にあたっての「前提・大切な視点」を言語化することに多くの時間を割きました。

Furano City　All Rights Reserved.

【A】総合計画の前提・大切な視点

1．未来は創るもの／構造変化に対応する新スタイルへの移行

① 人口減少をチャンスととらえる
② 「柔軟性」×「スピード」
③ 「チャレンジ」を応援する
④ 「真剣さ」×「遊び心」による創造性

2．「ひと」が中心であること

① 主役は誰か？
② 未来づくり人材が育つ環境とは？

3．「つながり」のアップデート

① 真の協働とは？
② 目の前の事象だけでなく、様々な要素のつながりを俯瞰(ふかん)し、好循環を生み出す
③ 未来を創るために、越境し、ボーダレスにつながる

4．富良野らしいユニークさがあること

① 美しい風景・自然を100年後の未来に
② 先人たちの知恵・歩みをアップグレード
③ 地球の住人として富良野がリードできること

4~7Pにてさらに詳細説明

Furano City　All Rights Reserved.

【A】総合計画の前提・大切な視点

1．未来は創るもの／構造変化に対応する新スタイルへの移行

1-①人口減少をチャンスととらえる

少子高齢化により、国内全体および富良野においても人口減少が進む。担い手不足、一人当たりの行政サービス負担等の増加、ハードの老朽化などが予想され、従来型の課題解決での限界が訪れている。

「人口が少ないこと＝悪」ととらえず、創造的な動きやテクノロジーの活用により、成行きで後退してしまうことがないような転換が必要となる。

未来は、誰かが与えてくれるものから脱却し、自ら目指し創る意識のもと、新スタイルを確立していくことが重要。

課題対応から、「創り出す未来」へ。

1-②「柔軟性」×「スピード」

先が読めずに、不確実で正解がない時代。やってみないと、何が確からしいかわからない時代。外部環境の変化もめまぐるしく、過去の成功体験や手法でうまくいかなくなってきている。まずやってみる機運を高め、安全な失敗を尊重する。やってみて、都度修正し、未来を創り出す。

1-③「チャレンジ」を応援する

富良野にはチャレンジを応援する土壌がすでにある。これからの時代には、ひとつの答えを探るよりも、「コト」が起こる実際の動きが重要。ひとりひとりのチャレンジを自然と応援できる寛容な環境を大切にする。

1-④「真剣さ」×「遊び心」による創造性

真剣さの中に、遊び心や余白があることで創造性は生まれる。どうやって、時間や心の余白をつくるか、遊び心を取り込めるか。未来づくりを楽しもう。

2．「ひと」が中心であること

3．つながりのアップデート

4．富良野らしいユニークさがあること

Furano City　All Rights Reserved.

【A】総合計画の前提・大切な視点

1．未来は創るもの／構造変化に対応する新スタイルへの移行

2．「ひと」が中心であること

2-①主役は誰か？

「より良い未来を」、と願うひとりひとりの気持ちに寄り添っていく。
富良野に住むひとりひとり及び、富良野に関わるひとりひとりが人生の「主人公」となることを応援する。
どれだけテクノロジーやデジタルが進化する時代においても「ひと」が中心にあることを大切にする。

2-②「未来づくり人材」が育つ環境とは？

変化の時代、構造が変わる時代において、自ら気づき、考え、行動を起こし、動きを修正し続けられる「ひと」が求められる。
そのような人材がひとりでも多く育つ環境そのものを皆で育む。

3．つながりのアップデート

4．．富良野らしいユニークさがあること

Furano City　All Rights Reserved.

【A】総合計画の前提・大切な視点

1．未来は創るもの／構造変化に対応する新スタイルへの移行

2．「ひと」が中心であること

3．つながりのアップデート

3-①真の協働とは？

「協働」が求められる社会背景を理解する。
これまでも、行政と市民の関係を模索しながら歩んできた。
「何のための協働か？」「あるべき協働の形とは何か？」を探求し続け、「協働」のアップデートをはかる。

3-②目の前の事象だけでなく、様々な要素のつながりを俯瞰(ふかん)し、好循環を生み出す

複雑な課題は、様々な要素と要素が繋がりあって、表面上見えにくい状況と重なり合って起こっている。一つの側面からの対処療法的なアプローチでは、本質的に解決に至らないことも多い。
要素同士のつながりを大局的に明らかにし、ヒト・モノ・カネ・情報など、「好循環」を生み出すループのデザインを行なっていくことが求められる。

3-③未来を創るために、越境し、ボーダレスにつながる

協働、好循環を生み出すためには、個人・組織・立場・住む場所・地域などの枠を越境し、つながりを創出していく必要がある。
富良野に住む人、住んだことがある人、訪れたことがある人、来てみたいと思う人、興味を持っている人、まだ知らない人たちとのつながりに、未来づくりへの可能性を見出す。

4．富良野らしいユニークさがあること

Furano City　All Rights Reserved.

【A】総合計画の前提・大切な視点

1．未来は創るもの／構造変化に対応する新スタイルへの移行

2．「ひと」が中心であること

3．つながりのアップデート

4．富良野らしいユニークさがあること

4-①美しい風景・自然を100年後の未来に

複数の山系に囲まれた360度のパノラマ、豊かな水系、農地が織りなす美しい景色、月ごとに表情を変える季節の奥行き。世界から「ひと」が集まる魅力、住む人が誇りに思える魅力が富良野にはある。

住む人も訪れる人も、その豊かな恩恵を受けている。
この美しい、あたりまえの環境を、「100年後の未来／子供たちに今以上に美しくして残していく」姿勢を忘れない。

4-②先人たちの知恵・歩みをアップグレード

先人たちから引き継ぐ「自然との共生」の知恵を最大限に活かし、「持続可能」な地域づくりをアップグレードしていく。

4-③地球の住人として富良野がリードできること

自然との共生を前提としたさまざまな取り組みや環境がすでに富良野にはある。その環境に磨きをかけ続けながらも、富良野の枠を超えて、社会・世界に発信し、リードできる可能性をカタチにしていく。

Furano City　All Rights Reserved.

－補足資料①－
【B】第６次総合計画
基本構想原案

総合計画策定の『前提・大切な視点』をもとに、これから１０年間のまちづくりの方向性と基本的な考え方として『基本構想』原案を検討しました。

基本構想（原案）では、「まちづくりスローガン」と「まちづくりコンセプト」を言葉と図で表し、さらに様々な立場を越えて共創していけることを願い「まちづくりメッセージ」を添えています。

Furano City　All Rights Reserved.

【B】基本構想原案「まちづくりスローガン」

スローガン

「美しい」のその先へ。WA!がまち、ふらの

「美しい」

富良野にはたくさんの「美しい」があります。
富良野ならではの豊かな自然や、農業など営みから作られる景色など、五感で感じられる外面としての「美しさ」。
そして、内面の「美しさ」。助け合って積み上げてきた風土、「いいじゃないか」とゆるくてやさしい心、新たな挑戦を応援したり多様性を受け入れる心、成長していくさま、癒されたり、美味しいと感じる気持ちなど。

どこかあたりまえに感じていることに、富良野ならではの魅力（＝美しく輝く部分）がたくさんあります。

その先へ。

これまでとは異なる正解が見えない未来だからこそ、答えを示すこと以上に新たに創造していく動きが増えていくことが大切です。
「美しいのその先」という表現には、今この瞬間やこれまでの良さを大切にしながらも、それらを磨いたり、新たな魅力を創り出していくことの重要性が込められています。

「先へ。」には、余白を感じさせ、ひとりひとりの想いや行動がその余白を埋めていくイメージを持たせています。

WA!がまち

富良野で暮らし続けたいと思える、たとえ富良野から離れていても富良野のことを大切に想えるようなまちになっていこう、という意味を込めています。

「WA!」には多くの意味が含まれています。
「輪」…つながる、つながり
「わっ」…気づき、驚き
「環」…循環
「和」…先人の残したもの、なごみ、やわらかさ
「我」…わがごと、我が町

そして、富良野という境界線を越えてつながっていく時代。枠を越えていこうという気持ちを込めて、あえて「WA!」という表現にしています。

Furano City　All Rights Reserved.

【B】基本構想原案「まちづくりメッセージ」「まちづくりコンセプト」

「美しい」のその先へ。WA!がまち、ふらの

メッセージでも表現

4つのWA!	輝く。	ひとりひとり、違っていい。あらゆるひとが、輝きを増すように支援・応援し合う。	つながり合う。	枠を越えてつながり合うことで新しい輝きがうまれる。
	創る。	新たな付加価値を創造する。新しいしごとを創り出す。	まわす。	地域を越えて「ひと・カネ・価値」の循環を創り出す。
	想う。	現在、過去、未来。それぞれの地域。富良野が持つ魅力を大切に想う。	みがき合う。	大切にしてきたものをみがき合い、新たなスタイルを創造する。
	感じる。	恵まれた自然から受ける恩恵を感じる。小さな環境の変化を見逃さない。	つなげる。	豊かな自然環境を未来へつなげる。新しい価値へとつなげる。
2つの基本アプローチ	共創	複雑な課題に対しあらゆる枠を越えて「共創」することで新たな一歩目を創り出す。	デジタル	持続可能なまちづくりに向けて、「データ」や「テクノロジー」の利活用を推進する。

1人・一つに焦点

複数の要素が必要なこと

Furano City　All Rights Reserved.

【B】基本構想原案「まちづくりコンセプト」

－４つのWA！－

輝く。つながり合う。【ひとのWA!】

輝く。	ひとりひとり、違っていい。 あらゆるひとが、 輝きを増すように 支援・応援し合う。	つながり合う。	枠を越えて つながり合うことで 新しい輝きが うまれる。

ことばが持つ意味

＜輝く。＞

- 「輝く。」とは・・・
  - ✓ きらきら／光を放つ／注目／まぶしい。
  - ✓ イキイキとしている／楽しそう／笑顔／いきがい。
  - ✓ 何かに一生懸命打ち込んでいる姿。
  - ✓ 成長している様・成熟していること。
- 「ひとりひとり、違っていい。」
  - ✓ 個性や多様性があることを認める。
  - ✓ 認め合う／承認されることでさらに輝く。
- 「支援・応援し合う。」
  - ✓ 一方的なヘルプだけではなく、力を信じ、自立できるよう、応援・支援し合う。
  - ✓ 「輝き」がある情報を知り、出番をつくってあげる。

＜つながり合う。＞

- 「つながり合う。」とは・・・
  - ✓ 結ばれて一続きになる／継続する／関係がある／絆。
  - ✓ 共感がある。
  - ✓ 同じ目的を持つ。
- 「枠を越えて」
  - ✓ 立場や年代、様々な壁を取り払う。
  - ✓ 自治体の枠や地理的制約などを取り払う（道外、海外・・・）。

Furano City　All Rights Reserved.

【B】基本構想原案「まちづくりコンセプト」

－４つのWA！－

創る。まわす。【しごとのWA!】

創る。	新たな付加価値を 創造する。 新しいしごとを 創り出す。	まわす。	地域を越えて 「ひと・カネ・価値」の 循環を 創り出す。

ことばが持つ意味

＜創る。＞

- 「創る」とは・・・新しいものを生み出す／興す／New／産む／挑む／育てるなど。
- 「新たな付加価値を創造する。」
  - ✓ 今あるものを伸ばす、見直す、プラスアルファを創る。
  - ✓ 「農業」×「観光」など掛け合わせを行う。
- 「新しいしごとを創り出す。」
  - ✓ 新規起業者の創業場所として／今までにない新しい仕事の創出の場として
  - ✓ 挑戦できる機会・応援がある。
- 「創る」のその先は？ ⇒ 稼ぐ ≒ 付加価値。
  - ✓ 所得が上がることで将来への安心、活力につながる。

＜まわす。＞

- 「まわす」とは・・・循環
  - ✓ 「循環する経済」を創り出す。
  - ✓ 様々な要素が相互に良い形でつながり合い、持続性がある状態を創る。
- 「地域を越えて」
  - ✓ 地域内外を越えて、ボーダーレスに循環を創る。
- 「ひと・カネ・価値」
  - ✓ 経営視点をもって、「ひと」の循環／カネの循環／価値（＝モノやサービスの価値）の循環を創る。

Furano City　All Rights Reserved.

【B】基本構想原案「まちづくりコンセプト」

－４つのWA！－

想う。みがき合う。【まちのWA!】

想う。	現在、過去、未来。 それぞれの地域。 富良野が持つ魅力を 大切に想う。	みがき合う。	大切にしてきたものを みがき合い、 新たなスタイルを 創造する。

ことばが持つ意味

＜想う。＞

- 「現在、過去、未来」
  - ✓ 過去と今の「美しさ＝魅力」を再確認し、未来へ。
- 「それぞれの地域」
  - ✓ 地域によって特徴があり、想い（郷土愛）はそれぞれ。
    →違いを大切にしていく。
- 「富良野の持つ魅力」
  - ✓ 魅力とは？⇒自然、人、文化、生活スタイル・・・　など。
  - ✓ 一人ひとり感じる魅力は別々。多様性。
  - ✓ 型にはめない富良野の「美しさ」。

＜みがき合う。＞

- 「大切にしてきたものをみがき合い」
  - ✓ これまで積み重ねられてきたものを再認識し、自分本位になることがないよう、「まち」にとってより良い形にしていく。
- 「新たなスタイルを創造」
  - ✓ 今までのやり方のままでは持続・維持は難しい。個人、地域が持続的に暮らせる形を創造する。
  - ✓ 短期で捉えると日常的なスタイルだが、長期で捉えると、人生のスタイル。日々の暮らしの豊かさだけでなく、人生の豊かさ。新たな豊かさの定義を再考。
  - ✓ 一度外に出ても、成長し、帰ってこれる（帰ってきたくなる）富良野の魅力。
  - ✓ 共創・デジタル利活用による「まち磨き」。

Furano City　All Rights Reserved.

【B】基本構想原案「まちづくりコンセプト」

－４つのWA！－

感じる。つなげる。【自然のWA!】

感じる。

恵まれた自然から
受ける恩恵を感じる。
小さな環境の変化を
見逃さない。

つなげる。

豊かな自然環境を
未来へつなげる。
新しい価値へと
つなげる。

ことばが持つ意味

＜感じる。＞

- 「自然」は、まず感じてみることが大切。
- どこで感じるか？
  - ✓ 「五感」で感じる・・・視／聴／味／触／嗅覚。
  - ✓ 「心」で感じる・・・想像する。本質をつかむ。
- どのような感情が生まれるか？
  - ✓ 残したい気持ち／誰かと共有したい気持ち。
  - ✓ 癒される気持ち／気持ちをリセットできる。
  - ✓ 「美しさ＝魅力」「あたりまえじゃない」「恩恵を受けている」ことへの感謝の感情など。
- 「小さな環境の変化」
  - ✓ 積み重ねてある「今」の自然の持つ豊かさを残していくために、変化をキャッチする。

＜つなげる。＞

- 「つなげる」・・・時間的につなげる／物理的につなげる。
- つなげるものは何か？
  - ✓ 富良野にしかない「美しさ＝魅力」未来につなげていく。
  - ✓ 自然があることで生まれる「新しい価値や魅力」を「ひと・しごと・まち」につなげていく。
  - ✓ エネルギーと営み・生活の循環。
  - ✓ 農業と自然の共生。
  - ✓ 災害と共存しながらも安心して暮らせるまち。

Furano City　All Rights Reserved.

【B】基本構想原案「まちづくりコンセプト」

－２つの基本アプローチ－

【共創×デジタル】

共創	複雑な課題に対し あらゆる枠を越えて 「共創」することで 新たな一歩目を 創り出す。	デジタル	持続可能なまちづくり に向けて、 「データ」や「テクノロジー」 の利活用を推進する。

ことばが持つ意味

＜共創＞

★ 正解が一つでない、変化のスピードが速く、やってみないとわからないことが多い時代。これまでとは違った新たな価値創造が求められる。

★ 「共創」とは、多様な立場の人たちが対話を重ね、新しい価値を「共」に「創」り上げていくこと。一歩進んだ協働・連携の形として、社会的課題の解決や新たな価値創造を目指す。

★ テーマによってさまざまな共創の機会が創出されることを大切にする。

＜デジタル＞

★社会課題の解決に向けて、「持続可能なまちづくり」の手段としてデジタルの利活用を行なう。

★効率化・省力化にとどまらず、デジタルを利活用した意思決定や広報戦略の見直しを行う。

★富良野の良さをなくさないよう、アナログ的なことの大切さも見極めながら、目的に応じてデジタルを利活用する。

★「データ」の利活用・・・
仮説を立てる⇒データ収集・分析⇒データ利活用による自治体経営

★「テクノロジー」の利活用・・・
科学技術の総称（ICT、AI、クラウド、ビッグデータ、ロボティクス、IoT等）。目的に合ったテクノロジーを利活用、推進を行う。

Furano City　All Rights Reserved.

【B】基本構想原案「まちづくりコンセプト」×「SDGs」

※SDGs（エスディージーズ：Sustainable Development Goals　持続可能な開発目標）とは、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標。

基本構想原案の「まちづくりコンセプト」図は、SDGsとの関連性も表現しています。

SDGs:17のグローバル目標

基本構想原案：まちづくりコンセプト

Furano City　All Rights Reserved.